



まちアワジティ

~夏の活動といえば・・・プールです!

夏休みはデイで過ごす時間が長くなり、プールは気候や保健の面からも最適な活動です。水に触れることが好きな子も多いですが、楽しみかたは様々です。

今年から中高生は、赤見の敷地内のプールで遊ぶ組、文京まごころそばの九品地プールに行く組の二手に分かれました。

九品地へは、着いたらすぐ入れるように全員水着でハイエースに乗車します。



準備万端!

赤見プール組は、水鉄砲やボートなど好きな遊び道具で思い思いに楽しめます。



九品地は広いので、時間いっぱい泳いだり追いかけっこを楽しんだり。終わった後は程よく運動した感があります。

そうしていつしか水も冷たく感じる日も増え、あっという間に(?) 夏休みもプール活動も終わりになり、また学校が始まりました。スタッフも夏休みモードから切り替えていかねばなりません。今年もプールありがとうございます!!



デイサービス通信

わらべ唄



7・8月の夏休み中、ボランティア体験に中学生が3回ほどデイサービスに参加してくれました。作品作りやおやつ作りのお手伝い、お茶会への初体験、レクレーションも一緒に楽しんでいただきました。

朝の体操の後に、リズム運動として『わらべ唄』を唄いながら身体や手指を動かしたりしていますが、中学生たちがその『わらべ唄』を知らないことに、利用者さんたちはびっくりでした。

「あんたがたどこさ」「うさぎとかめ」「金太郎」「案山子(かかし)」・・・利用者さんたちにとっては、どの唄も馴染みのある唄で、中には「うさぎとかめ」の唄を4番までスラスラ唄える方もいます。

運動も、1・2・3と数を数えながら行うよりも、知っている曲を唄いながらのほうが、複式呼吸もでき楽しんで行えます。

デイサービスでは「カラオケ」は行っていませんが、これから涼しくなったので、公園の木陰で好きな生唄を楽しみたいと思います。



息子の成長に期待する

筆者の息子は現在高校3年生だが、2009年3月に小学校を卒業するとき、一人ひとりが「将来の夢」を色紙に書いて、寄せ書きを作成することがあった。筆者の息子は特別支援学級にお世話になっていたが、その色紙に「お父さんのような大人になりたい」と力強く書いてくれた。筆者は当時、某製薬会社で錠剤や注射剤の開発に携わる研究員という職業だったが、息子のメッセージに対して、父親として大変嬉しく、誇りに思った。

その他の生徒からは、「父の仕事を継ぎたい」、「大工さんになりたい」、「有名人になりたい」、「プロ野球選手になりたい」、「政治家になりたい」など、小学生なりに希望に満ち溢れたメッセージが数多くあった。

その一方で、2009年当時はリーマンブラザーズショックの影響で世界経済が良くない状況であり、寄せ書きの中には、「安定した収入の得られる職業に就きたい」など、慎重に将来の夢を書いた生徒も大勢いた。

最近の日本経済は上向きつつあるが、景気には波があり、どんな職業でも常に安定した収入が得られる保証はない。むしろ、一昔前の年功序列を廃止し、完全能力性の賃金体系に移行する会社が多くなってきている。

筆者はその後転職し、単身赴任中だが、今自分の置かれている環境(職場、家庭)を大切にし、毎日活き活きと働くことに喜びを感じている。現在、息子の高校卒業後の進路を模索中だが、必ず良い方向に進んでいくと信じている。

浅井 泰行



心づけづれ



息子の成長に期待する

筆者の息子は現在高校3年生だが、2009年3月に小学校を卒業するとき、一人ひとりが「将来の夢」を色紙に書いて、寄せ書きを作成することがあった。筆者の息子は特別支援学級にお世話になっていたが、その色紙に「お父さんのような大人になりたい」と力強く書いてくれた。筆者は当時、某製薬会社で錠剤や注射剤の開発に携わる研究員という職業だったが、息子のメッセージに対して、父親として大変嬉しく、誇りに思った。

その他の生徒からは、「父の仕事を継ぎたい」、「大工さんになりたい」、「有名人になりたい」、「プロ野球選手になりたい」、「政治家になりたい」など、小学生なりに希望に満ち溢れたメッセージが数多くあった。

その一方で、2009年当時はリーマンブラザーズショックの影響で世界経済が良くない状況であり、寄せ書きの中には、「安定した収入の得られる職業に就きたい」など、慎重に将来の夢を書いた生徒も大勢いた。

最近の日本経済は上向きつつあるが、景気には波があり、どんな職業でも常に安定した収入が得られる保証はない。むしろ、一昔前の年功序列を廃止し、完全能力性の賃金体系に移行する会社が多くなってきている。

筆者はその後転職し、単身赴任中だが、今自分の置かれている環境(職場、家庭)を大切にし、毎日活き活きと働くことに喜びを感じている。現在、息子の高校卒業後の進路を模索中だが、必ず良い方向に進んでいくと信じている。

浅井 泰行



ヘルパーだより

No. 28

視覚障がい者の外出支援として、同行援護の障害福祉サービスがあります。今までヘルパーの資格があれば対応できましたが、今年10月より、同行援護の養成研修か以前からのガイドヘルパーの資格が必要となります。さらに、同行援護のサービス提供責任者は同行援護の応用課程の研修を受講することが必須となり、当事業所の常勤4名が7・8月と受講しました。

研修は実際、アイマスクをしてバスや電車を利用しての体験などがありました。見えないことの不安感、どんなことに気を配り安心の介助を行うかを学びました。

現在当事業所の同行援護の利用者さんは、5~6名みえます。通院の付き添いや買い物の同行、余暇の外出まで様々です。

Aさんは、診療所の仕事を持ちながらも、休みの日にカラオケに行ったり、スポーツジムへと活動的に過ごされています。Bさんは、毎日デイケアに行くのが日課で、たまの休日にショッピングや喫茶店に行くのを楽しみにされています。

利用者の中には、視覚障がいの他にも病気を持っておられる方もあり、一人一人に合わせた心配りが必要です。それでも皆さん、外出を機会に生活を豊かに過ごしたいという前向きな姿勢を持つてみえます。

同行援護のサービスを通して、利用者に寄り添うケアを再認識したいと思います。

